

会 議 要 旨 書

会議名	第4期三鷹市生涯学習審議会第6回定例会 第33期三鷹市社会教育委員会第6回定例会
日 時	令和6年10月9日（水） 18時30分～20時30分
場 所	三鷹市生涯学習センターホール
出席委員 （14人）	田中雅文 矢崎喜美子 齋藤智志 青木玲子 生田美秋 小林七子 塚田明美 永田和昭 丸岡千賀子 櫻井勉 藤橋初美 加藤綾子 井上翔太 千田妙子
欠席委員 （6人）	廣瀬圭子 山口和昭 間部豊 進邦徹夫 雨谷由夏 東山昌央
行政職員 （8人）	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長 平山寛 教育部調整担当部長・総務課長 齊藤真 生涯学習課長 八木隆 三鷹市立図書館長 大地好行 生涯学習課主査 中西崇郎 同主任 齊藤満里奈
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0人
1 開会 （事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。） 2 議題 (1) 自主グループ講師派遣事業の講師等変更について （事務局より、説明を行った。） 【会長】簡易な変更であれば、私と事務局で判断して軽微な変更として対応する。今回のように、講座内容や講師が変更となるような場合には、委員の皆様へご意見をお伺いすることとしている。 ご意見やご質問はあるか。 ～意見なし～ (2) 三鷹市生涯学習プラン2027について 事務局より三鷹市生涯学習プラン2027（素案）について、説明を行った。 【会長】生涯学習の定義及び範囲であるが、一般的には人が生まれてから亡くなるまで生涯にわたって学ぶことの全体を指すのが一番広い定義である。そのため、学校教育もその範囲に入ってくることになる。4ページには学校教育ということも書いてあり、また家庭教育も書いて	

あるということで、非常に広範囲に捉えられている。

【スポーツと文化部長】ぜひ、生涯学習の定義に何を盛り込むべきかという議論をしていただきたい。

【会長】教育という領域を大きく分けると、学校教育、家庭教育、組織的な教育活動の3つに分けられる。このように、大きく3領域で捉えるのが一番大きな教育領域の捉え方になる。人々が生涯にわたって学ぶときに、この教育の領域を活用しながら学んでいくというのが1つである。しかし、人は教育として提供されるもの以外にも生涯にわたって学んでいく。意図的に自ら調べる学びもあれば、意図的に学ぼうと思わなくても知らず知らずのうちに学んでいるということもある。例えば、ボランティア活動で人の役に立とうと思ってやっているのに、そこからたまたま何かを学び取るというような偶発的な学習もある。つまり、教育領域を使って学ぶこと、それから、教育領域以外のところで、意図的に学ぼうと思って学ぶこと、意図しないけれどもたまたま偶発的に学んでいること、このように大きく分けることができる。

プランの中で生涯学習の定義として書かれているものの中で、学校教育、家庭教育、社会教育、これらは教育の3領域で、そのほか文化活動やスポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、これらは社会教育として提供されているような活動もあるし、そうではなくて自分たちで何かを楽しんでいる中から学び取るというものもあるので、ここではいろいろな活動、人々の諸活動の中で代表的なものを文化、スポーツ、レクリエーション、ボランティア、趣味というように例示しながら様々ということで定義されている。

6ページでは、さらに企業内教育が加わっている。企業内教育も広い捉え方で言えば社会教育の一環になる。しかし、企業内教育も制度としては文科省ではないところでもかなり推進しているというがあるので、社会教育と分けて企業内教育だけ取り立てるというやり方もある。そういうことで社会教育から分離させて企業内教育を記載しているということになる。

【副会長】「教育」と「活動」の違いをどのように理解すればよいのか。

【会長】例えば、学校教育の中で体育の授業や部活動があるが、これはスポーツ活動ともオーバーラップする。文化活動においても、社会教育の中で文化的な活動としての学びはたくさんあるわけで、ここも重複してくる。

【スポーツと文化部長】教育活動とアクティビティ活動について、きちんと切り分けて書く必要があると考えている。

教育は大きく3つに分けられ、活動は社会教育の中、もしくは偶発的な活動や意図的な活動の中でこういうものが挙げられるというようなことを切り分けて記載したほうが、理解しやすく全体像をつかみやすいかもしれないので、記載方法を工夫したい。

【副会長】身近な言葉として「地域活動」という言葉がある。コミュニティ・スクールの方たちの活動や、そういうところでの自主的な学び、偶発的な学びは、とても身近なものとして多いと思う。地域活動というなじみのある言葉を入れたらどうか。

【スポーツと文化部長】「読書活動」を記載してもよいと思った。

【図書館長】図書館活動については、学校における読書活動、家庭における読書活動、地域における読書活動という形で整理されている。そういう意味では、この学校教育、家庭教育、社会教育のそれぞれに読書活動が一部含まれていると思う。

【委員】学校教育、家庭教育、社会教育とそれ以外に切り分けるのは必要だと思う。

地域活動とボランティア活動は何が違うのか。また、文化活動と読書活動は何が違うのか。いくつかの層に分かれた文言が出てきているので、それをどのように整理するかが難しい。例えば、文化活動は広い活動なので、その中に括弧して読書活動や芸術鑑賞みたいな形で入れてみてはどうか。

【会長】8ページにある49.7%という数値は、市民満足度調査報告書には出てくるのか。

【スポーツと文化部長】生涯学習活動を毎日行っている、週3回、週2回というように、それぞれの項目ごとの数値が出ている。指標として取っているのは、1回も行っていない及び無回答以外の項目を足した数値である。

【会長】この数値について、各パーセンテージを足しているのか、それとも元の数字を足したものを全体の数で割っているのか。各パーセンテージを足しているだけであれば、実際の数値とずれてしまう可能性がある。

【スポーツと文化部長】パーセンテージを足し上げた数値である。元の数字を割った場合どのようなようになるか確認する。

【委員】8ページの水色塗りになっている箇所について、市民にとってはなぜ水色塗りになっているのかよくわからないと思う。

【スポーツと文化部長】水色塗りになっている理由について、説明を記載する。

【会長】問46-1についても、なぜ真ん中の3つが水色塗りになっているのかわからない。

【スポーツと文化部長】市民満足度調査報告書の中で、「学びと活動の循環」の創出につながっているといえる数値を水色塗りにしている。こちらにも、説明を記載する。

【委員】問46-1は複数回答なので、この3つの水色塗りになっているところを同じ方が回答している可能性もあると思うが、単純に足した数字が「生涯学習の成果を活かしている市民の割合」と言えるのか。

【スポーツと文化部長】記載方法等について、再検討する。

【会長】13ページの図について、文科省としては個人がよくなることと社会全体がよくなることの両方を指してウェルビーイングと呼んでいるので、「個人と社会のウェルビーイング」としている。

15ページの図について、「まなびたい」「ふかめたい」「いかしたい」は、個人が学んで、また自主的に学びながら深めていって、それを地域活動や社会活動で活かすという、これは非常にすっきりした3つの柱になっている。それに対して「つなげたい」は基盤整備であり、行政が市民の学びを支えていくということなので、「ささえたい」という言葉でもよいと思う。

【委員】「ささえたい」にするのであれば、手の上に土があって若葉が出ているような、手で持って支えているマークとかにするとわかりやすい。また、主語を市民にするのなら、「さがしたい」はどうか。虫眼鏡のマークなど、丸の外から虫眼鏡で「さがしたい」とすればわかりやすいと思う。

【委員】市民が見てわかりやすいように図を入れるとよい。図を入れる場合には、言葉できちんと説明も記載しないとわからないと思う。

【委員】16ページの体系図を見ていて、それぞれがどうつながるのかわからないと思い、イメ

ージ図として 15 ページの図を作成した。すべての主語を市民にした方がわかりやすいと思うので、そうするとこの図のイメージも変わってくると思う。

【スポーツと文化部長】16 ページにある施策 4 (1) が学びの場の提供となっていて、主語が行政である。そのため、施策 4 (1) は主語を転換することが難しい。ここを転換することができれば、すべて市民を主語にして表現することができると思う。

【会長】学びの場の提供についても「さがしたい」、場所を探すという、そういう情報を探すというので特に問題はないかと思う。あるいは「みつけない」や「つかいたい」でもよいのではないか。また、市民を主語にするのが難しければ、施策 4 だけは「～したい」という表現をやめてもよいのではないか。

【副会長】市民主体で言えば、「つながりたい」である。心がつながりたいと思ってくれるように動かしていくというのは、別の働きかけも必要になってくると思う。しかし、コーディネーターというのは行政側で何か場をつくっていかないと、私たち一人ひとりの欲求というのをうまく行政の情報をくみ取っていけないと思うので、行政側の何か主体性のあるものというのは、施策のどこかにあるべきだと思う。

15 ページの図について、「生涯学習の基盤作り」の記載されているところがわかりづらい。

【委員】「つなげたい」を「ひろげたい」にしたらどうか。

【スポーツと文化部長】17 ページの表について、新たに目標値を記載している。この表を A 3 見開きの大きな表にして、K P I をもう少し具体的に書けるような工夫をしたいと思う。

【委員】K G I や K P I について、市民の皆様理解してもらうためには、このような指標を使う意味を説明する必要があるのではないか。

【スポーツと文化部長】K G I や K P I も含め、図や表についても、それぞれが何を示しているのかきちんとわかるようにしていきたいと思う。

【会長】本日も欠席の委員より、事前にご意見をいただいている。18 ページ「イ 人生 100 年時代における学習機会の充実（リカレント教育）」の《具体的な取り組み例》に、オンラインやオンデマンド配信についても記載したらどうかというご意見である。

【生涯学習課長】検討したい。

【委員】私は華道を教えているが、駅の近くで夜遅くまで空いている施設がないため、仕事終わりの方に教えてあげることができないので、そういう方たちにも目を向けられるようになるとうい。

【委員】大沢地域は高齢者が多く住んでいる地域で、施設などはあまりなく、夜は真っ暗である。生涯学習の観点から、そういう人たちでも通える場所や交通の便をもう少し充実させることができるとうい。

【スポーツと文化部長】今後、学校 3 部制の取組の中で、小学校や中学校の施設を活用した学習機会のさらなる拡充を図っていきたいと考えている。そうすることで、大沢地域でも身近な場で学ぶ機会が提供できればと思う。

また、夜 9 時まで学校の特別教室で華道ができるような環境を整えば、駅近くではなくても、家まで帰ってきて、家の近くで学ぶことができるようになるかもしれない。

【教育部調整担当部長】学校 3 部制の活用について、現在、モデル事業として特に夜間の 3 部

のところで、様々な講座を開催している。今後、生涯学習課と連携していく方向性は十分あり得ると思う。

【委員】学校3部制に関して事例などを記載することで、何か学びたい人たちにはとてもよいヒントになるのではないかな。

【委員】17ページのわかりやすい情報の提供について、生涯学習活動を行わない理由のうち「必要な情報がない」と回答した市民の割合をKPIに掲げているが、該当がない（行いたい活動が開催されていない）という人が含まれているとすれば、基本施策1や2に関連してくるのではないかな。必要な情報がないというのは、どのようなアンケート項目だったのか伺いたい。また、例えばパンフレットの配布部数を増やして、市民に自発的に持っていつてもらえる数を増やすとか、そういうところのほうで情報提供できたかどうかの実数になるのではないかなと思う。

【スポーツと文化部長】生涯学習活動を1回も行っていないと回答した47.3%の人たちのうち、約2割の人が「必要な情報がない」と答えている。「必要な情報」の詳細はないが、いくつかある選択肢の中で、必要な情報が提供されていないと感じているということである。

【委員】情報の提供について、より多くの方が興味を持って参加できるようになるとよい。三鷹の愛着心を育み、住み続けたいなるまちづくりによって、いろいろな面で魅力あるものをつくり上げていけたらと思う。

【委員】学校3部制という言葉が多く使われているが、ぜひスクール・コミュニティについても記載していただけるとありがたい。

【会長】12ページ(6)にコミュニティ・スクールという言葉が出てくるが、それとともにスクール・コミュニティも含め、学校と地域が相互にやり取りしながら発展していくような、そのようなイメージが書けるとよいと思う。

【委員】今年の市民協働センターのNPOフォーラムは、つなぐ・つなげるというのがテーマになっていた。プランの全体を読み通したときに、地域で生涯学習を通して市民がつながりたいという思いというのを感じたので、15ページの図についても「つながりたい」という表現がよいと思った。また、図に「まなびたい」「ふかめたい」「いかしたい」と書いてあるが、イメージができるようなイラストを入れると、市民にもわかりやすいと思う。

【委員】スポーツに関しても、生涯学習と同じく、「いつでも、どこでも、だれでも、そしていつまでも」できるように周知をしているが、イベントへの集客に関してまだ課題がたくさんあるので、引き続き学んでいきたい。

【委員】市民満足度調査は、どこで配布して実施したのか。この調査に出てこない人たちに対して、生涯学習活動を広めていくことができればよいと思う。

【スポーツと文化部長】市民満足度調査は、4年に1度全庁的に行っている意識調査で、無作為抽出である。

【委員】11～12ページの生涯学習プラン推進のための6つの視点について、これを見て市民がわかるのかなと思う。(1)「ウェルビーイング」の実現は目標、(2)人生100年時代における生涯学習は時代認識、(3)DXの推進は手法、(4)「学びと活動の循環」の推進は生涯学習の方向性、(5)市民の学び合いの充実に向けた支援及び(6)子どもの生涯学習環境の充実と学校を活用

した学習機会の提供は行政による支援であり、それぞれ観点が違うものが並列されている。これだけを見て、この意図が伝わるかというのが気になった。

多くの人に届けるために、概要版や子ども版を作ることも検討していただきたい。

【会長】学習や教育に関するものが(2)と(6)なので、これがまずあり、そして、学習した成果としてどう生きるかが(1)や(4)であり、相互の学び合いというのが(5)というように位置づけることができると思う。

【スポーツと文化部長】記載する順番を変えることで、ストーリーを作ると伝わりやすくなると思うので、記載順を検討する。

3 報告

(1) 令和6年10月24日(木)、25日(金)に開催される、第66回全国社会教育研究大会茨城大会、第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会に委員1人が出席予定である。

(2) 令和6年11月16日(土)午後に、府中市で東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会が開催される。

(3) 令和6年12月14日(土)午後1時30分から、町田市で東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会が開催される。

4 その他

(1) 生涯学習プラン2027の策定までのスケジュールについて

令和6年12月に「案」を文教委員会で報告し、令和7年1月に「案」に関するパブリックコメントを実施する。パブリックコメントでいただいた意見を反映したものを「最終案」として、2月の生涯学習審議会・社会教育委員会議において諮問・答申をさせていただき、3月に策定したいと考えている。

本日議題とした「素案」に関して追加でご意見があれば、10月中にいただければと思う。

(2) 次回は、令和7年2月13日(木)午後6時30分から、生涯学習センターで開催予定である。

—閉会—